



陶史の森からのご案内

バードウォッチング (自由参加)
2月22日(日)、3月22日(日)
午前9時～11時
※集合場所は林泉の池堰堤です。

2月の半ば、まだ寒さが残る陶史の森に、マンサクの花が咲き始めます。黄金色の長いリボンのような花弁を付け、春の訪れが近いことを静かに知らせてくれる花です。「マンサク」という名前は、花が枝いっぱい咲いたため「満咲く」に由来するという説や、春にいち早く咲くため「まが咲く」に由来するという説があります。

寒さに強い落葉小高木(冬に葉が落ちる3〜5メートルの木)で、本州、四国、九州に広く分布し、里山近くの雑木林で多く見られます。葉や芽が出るより先に、4つの弁の黄色い花が、葉の付け根にいくつかが固まって咲きます。果実は開花と同時に実りますが、あまり目立ちません。よくたわみ弾力性がある枝は、「かんじき」(雪の上を歩くための道具)の材料に使われてきました。また、繊維が丈夫な樹皮は縄として重宝され、白川郷の合掌造りでは骨組みの結束材に使われています。長い冬を耐え、春の訪れを告げるマンサクの花言葉は「幸福の再来」です。黄金色の花を見つけると、ふと心が軽くなるような気がします。

春はすぐそこ
ーマンサクー

トキハク
プロジェクト

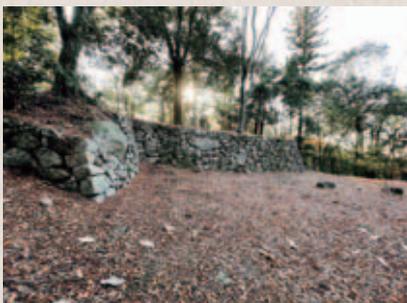
新博物館準備だより

学芸員は、いま何してる？

美濃陶磁歴史館
(☎55-1245)



昭和40年代の妻木城山頂部



現在の妻木城山頂部

第22回 失われた妻木城の姿、崩れた石垣の意味
皆さんは「破城(はじょう)」という言葉を知っていますか。破城とは、城の軍事的な役割を終わらせるために、建物や石垣などを意図的に壊すことをいいます。こうした行為は、戦国時代から江戸時代にかけて各地で行われてきました。

左の写真は、昭和40年代に撮影された妻木城山頂部(主郭)の様子です。写真を見ると、当時は主郭を囲む石垣が大きく崩れていたことがよく分かります。聞き取り調査によれば、その後、地元の有志が周囲に残る崩落した石材を使いながら、石垣の積み直しを行ったそうです。妻木城は、平成10〜12年度に発掘調査を行いました。破城をしっかりと示す証拠は確認できませんでした。

しかし近年、各地の山城調査が進んだことで、破城の実態が少しずつ分かってきました。その成果を踏まえ、妻木城も破城を受けていた可能性が高いと考えられています。

この古写真は、発掘調査だけでは見えてこなかった妻木城の歴史を教えてください。貴重な資料だと言えるでしょう。